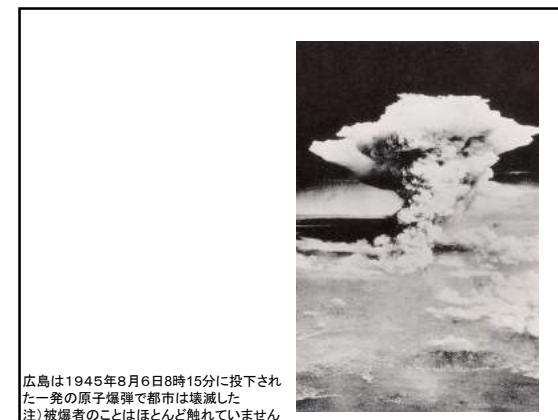




担当者 石丸紀興

1966年（昭和41）4月
～2003年（平成15）3月
広島大学工学部建築学科
2003年（平成15）4月～2011年（平成23）3月
広島国際大学工学部
2011年（平成23）6月1日～
（株）広島諸事・地域再生研究所
代表・研究員



平和文化研究所講演会

都市の記憶VIII
被爆建造物の保存
～広島の事例、長崎との比較

広島諸事・地域再生研究所
石丸紀興
オンライン講演会
2021年2月23日（火・休）

17年間 千田町3丁目
20年間 東広島西条
8年間 呉市広町

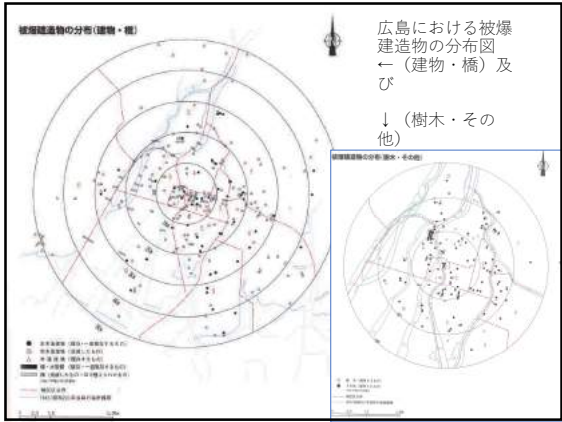
1966年（昭和41）4月 広島都市調査、都市総合計画、地区計画に関わる
1968～9年（昭和43～44年） 広島大学で大学紛争
全国的にも大学紛争、大学の果たしている役割、都市計画のあり方、特に住民をどうとらえるか浮上
1971～2年（昭和46～47） 広島市周辺部整備基本計画を住民参加方式で推進、広島市との関係激変
1978年（昭和53）より広島復興計画史の調査開始
1989年（平成1）より被爆建造物の本格的調査研究



すなわち長崎では建造物として

- 45か所の建築物に対して58か所の工作物・橋梁が現存しており、被爆遺跡という観念が強く存在している
- 浜口町火の見櫓、浜口町電停石垣、浦上天主堂石垣、浦上天主堂鐘楼、鎮西公園石碑、常清高等実践女学校赤レンガ塀、長崎医科大学門柱、ペアトス様の墓、山里国民学校防空壕、瓊浦中学校貯水タンク、山王神社二の鳥居、東家の墓地、田川家の墓地、三菱兵器大橋工場標柱、淵神社鳥居・石灯籠、住吉神社鳥居・狛犬、弁財神社鳥居、金刀比羅神社鳥居、三菱兵器住吉トンネル工場、等々
- 特に 鳥居10件、石垣3件、門柱3件、橋梁19件

少しでも被爆の痕跡が残っている構造物に着目して調査対象（保存対象？）としている

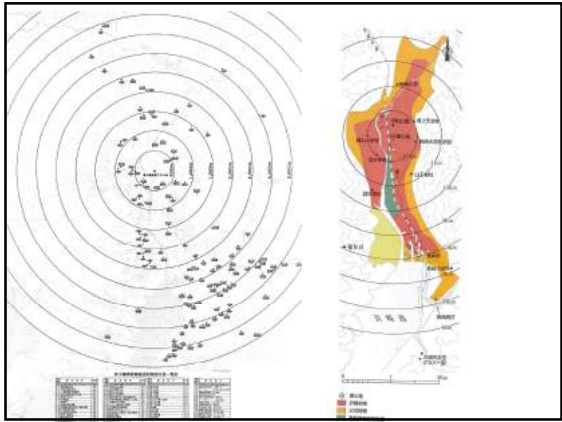


長崎の被災

長崎では南北方向に対象物が集中し、かつ3km圏から4.5km圏において南東方向に集中しているのである。すなわち、長崎の旧市街地は、焼失を免れていて、重大な被災地域ではなかったのである。これが広島と決定的な差である。距離的には、重大な被災地域でなかったとはいえ、プルトニウム原子爆弾の威力はなみはずれたものであり、全壊全焼約13000戸、大破半焼込みで18000戸、被災者約120000人に達した

広島における被爆建造物の分布

•セクターによってやや違いがあるが、概して爆心地に近ところから集中して分布しており、当時の建造物分布がそのまま被爆建造物にはねい押ししていると思われる。すなわち、リトルボーイ搭載のエノラゲイ号は、最も効果的な位置に原爆を投下したとすることができる。爆心地を中心として半径500m、1km、2km、3kmと最も激烈な熱線、爆風、放射線を浴びせて、破壊壊滅、粉碎、吹き飛ばしができるように対応している



被爆建造物・被爆建物とは何か
 ここでは被爆建物に絞る

被爆建造物の考察



1949年 広島平和記念都市建設法 制定
 1949年 長崎国際文化都市建設法 制定
 第一条 この法律は、国際文化の向上を図り、恒久平和の理想を達成するため、長崎市を国際文化都市として建設することを目的とする。

- ③) 保存・継承を考える基本の観点
- ア 広島・長崎の世界史における意義は、「および互の口で述べたように、被爆復興を表現しようとする理想を象徴する都市となったことである。広島・長崎をはじめ日本が復興をはかるとして中絶できなかったのは、この歴史史的意義の証である」と我々は考える。
- イ この意義の具体化において、目に見える被爆建造物の保存は、記録の作成・保存とともに特別に重要な意味をもつ。被爆建造物が実現するまで、この努力は、国から民間に至るまで各界において継続される必要がある。
- ウ 一方、被爆建造物の保存は、所有者の理解と協力がなくては不可能である。したがって個々の被爆建造物を国営、県営、市営、民営に分類するとともに「関係し部門」、それらに関する考え方や意見も以下のように整理した。

項目	広島市	長崎市	備考
被爆面積	約1.5km ²	約1.5km ²	
被爆人口	約25万人	約10万人	
被爆建物	約15万棟	約10万棟	
被爆建物	約15万棟	約10万棟	
被爆建物	約15万棟	約10万棟	

■長崎と広島の違い(比較)

項目	広島	長崎	備考
被爆の経緯	アメリカ軍による原子爆弾投下	アメリカ軍による原子爆弾投下	被爆の経緯は異なる
被爆の経緯	アメリカ軍による原子爆弾投下	アメリカ軍による原子爆弾投下	被爆の経緯は異なる
被爆の経緯	アメリカ軍による原子爆弾投下	アメリカ軍による原子爆弾投下	被爆の経緯は異なる
被爆の経緯	アメリカ軍による原子爆弾投下	アメリカ軍による原子爆弾投下	被爆の経緯は異なる

各種比較・考察

広島
 TNT2万t
 1320ha
 6万7860戸
 400万坪

86件

86件/1320ha
 110万人

被爆建物の意味、

- 被爆したことをその場所と建物で現実として示す、物語る
- そのことによって被害の実態や核の問題への理解や行動へ発想へつなぎ、深化させる
- 被爆者が語っていたことを、被爆者が次第に姿を消している中で、継承していくことのできる方法である
- 建物を生かしてさらに使用していくことは、建物の命を長期に永らえることで、さらに新たな役割を担うことにつながる(歴史的な建物の保存と同様)

被爆建物リスト

建物名	所在地	種類	状態	備考
広島市立中央図書館	広島市中区	図書館	廃止	
広島市立中央図書館	広島市中区	図書館	廃止	
広島市立中央図書館	広島市中区	図書館	廃止	
広島市立中央図書館	広島市中区	図書館	廃止	
広島市立中央図書館	広島市中区	図書館	廃止	

各種比較・考察

広島

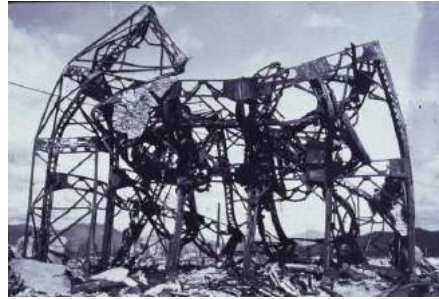
157件
 86件(29件)
 48件(10件)
 2件(2件)
 21件(不明)
 不明

86件
 30件
 56件

The Damage of Reinforced Concrete Buildings in 1945



The Damage of a Steel-frame Building, Warehouse of Odamasa in October, 1945



The Damage of a Reinforced Concrete Building, Teikoku Bank in October, 1945

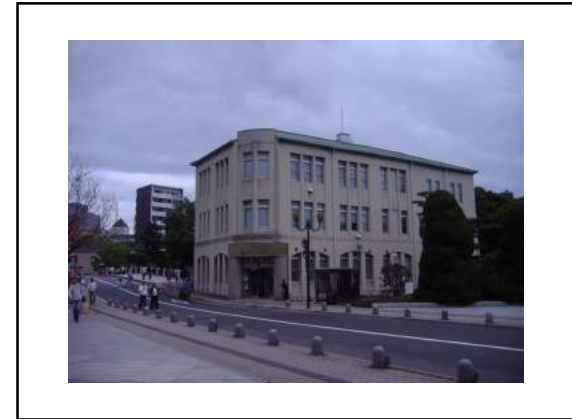


増田清設計：大正屋呉服店

1-2
燃料会館 竣工時：大正屋呉服店
 現 在：平和地区公園レストロム

爆心からの距離 170m
 所在地(旧町名) 中区(高野) 番7号(中島車庫)
 竣工時期 1929年(昭和4年)5月
 構造/階数 鉄筋コンクリート造/3階建+地下1階
 建築家/施工者 増田清/清水組

被爆時 燃料会館
 現在 広島市リストウス
 爆心地から距離 170m
 竣工 1929年3月
 鉄筋コンクリート造3FB
 1
 増田清/清水組



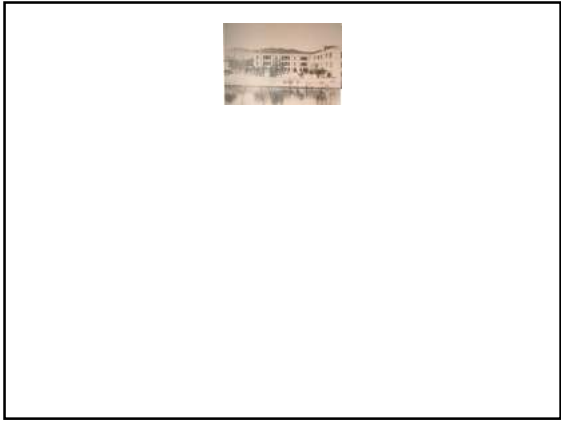


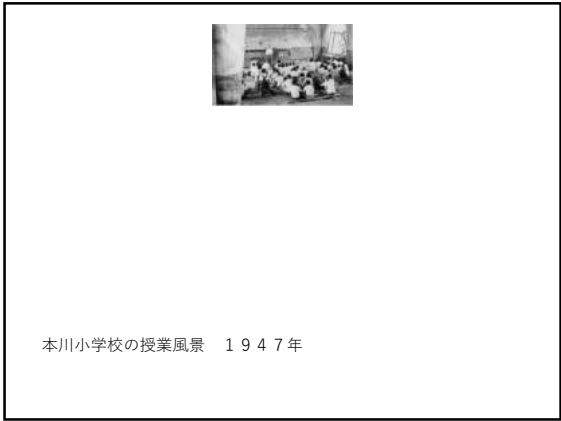
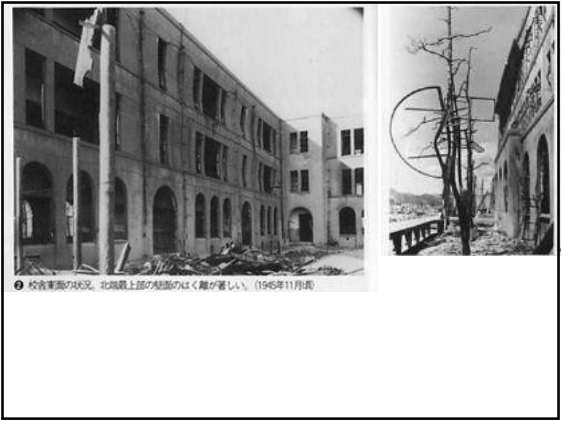
本川小学校の情報

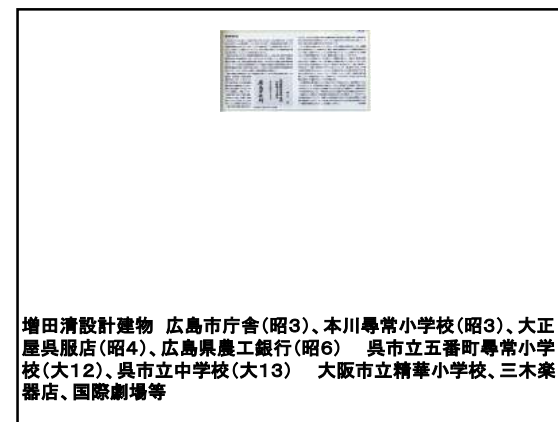
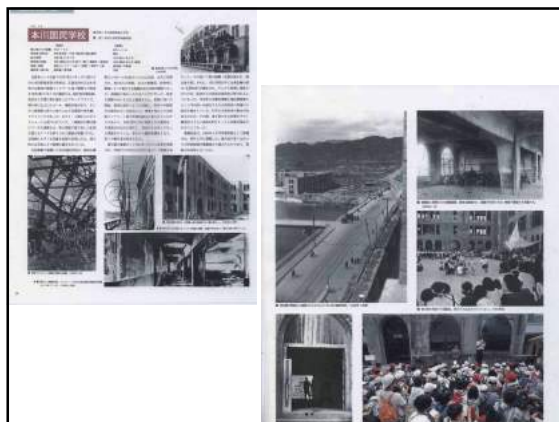
本川国民学校

竣工時：本川尋常高等小学校
現在：本川小学校平和資料館

[校舎]	[講堂]
<p>爆心地からの距離 410メートル</p> <p>所在地(旧町名) 中区本川町一丁目5番39号(鍛冶屋町)</p> <p>竣工時期 1928(昭3)年7月</p> <p>解体等の時期 1987(昭62)年6月(地下1階・1階部分一部現存)</p> <p>構造/階数 鉄筋コンクリート造/3階建・一部地下1階</p> <p>設計者/施工者 増田清/清水組</p>	<p>420メートル</p> <p>同左</p> <p>1933(昭8)年5月</p> <p>1945(昭20)年8月(壊滅)</p> <p>鉄骨造/平屋建</p> <p>不詳</p>



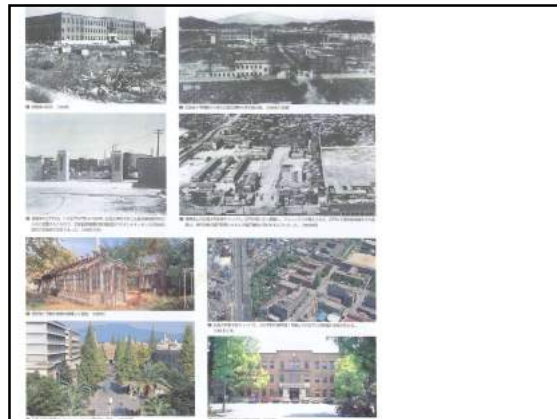




増田清

日本勧業銀行広島支店

This page features a collection of architectural drawings, including floor plans and elevations, alongside historical black and white photographs of the building's exterior and interior. The text provides a detailed history of the building, its architectural style, and its significance as a landmark in Hiroshima.



広島文理科大学 (中国地方総監府)

広島文理科大学 (中国地方総監府)

This page includes architectural drawings such as floor plans and elevations, along with photographs of the university's buildings. The text describes the university's history, its architectural design, and its role in the region.



国際平和都市ひろしまの「知の拠点」として、まも全体で知の育成・交流を図る「森」を創出します。

国際平和都市ひろしまの「知の拠点」として、まも全体で知の育成・交流を図る「森」を創出します。

建築事務所	ナレッジフォレスト	建築主	広島県
建築の概要	国際平和都市の中心部に位置する、国際平和都市の発展を支えるための「知の拠点」を創出するためのプロジェクト。ナレッジフォレストは、国際平和都市の発展を支えるための「知の拠点」を創出するためのプロジェクト。	建築の概要	国際平和都市の中心部に位置する、国際平和都市の発展を支えるための「知の拠点」を創出するためのプロジェクト。ナレッジフォレストは、国際平和都市の発展を支えるための「知の拠点」を創出するためのプロジェクト。

This page features a detailed architectural site plan on the left, showing the layout of the project within the city. On the right, there are several architectural renderings and photographs showing the proposed buildings and their integration into the urban environment. The text describes the project's goals and the role of the 'Nレッジフォレスト' (Knowledge Forest) in creating a hub for knowledge and exchange.

旧理学部1号館再生利用の 様々な構想・考え方

- 自然史博物館（仮称）
- 折りヅル保存展示館（仮称）
- 修学旅行生宿泊研修センター（仮称）
- 広島市博物館 比治山での計画の代替として
- 広島文学資料館
- 戦時中の外国人留学生の記録・追悼の施設
- 等々
- 広島大学としての構想あり それは旧理学部1号館を取り壊して新築する構想

被爆建物の存在はどのような意味を發するか

- 被爆した事実・記憶をどう伝えるか
- 被爆の実相をどう伝えるか
- 存在することによって多くのことが伝えられる
- どのような解釈も許容することもできる
- 歴史的な建物を再生利用すること、長期的に利用することの意味は大きい(ヨーロッパはその本拠地)

被爆建物保存は簡単ではない

- 所有者の問題
- 耐震性の問題
- 費用の問題
- どのような機能を果たすべきか